



関係人口創出・拡大事業
モデル事業

2019年度

報告書



 福知山公立大学
The University of Fukuchiyama

☎ 0773-24-7100
FAX 0773-24-7170

〒620-0886 京都府福知山市字堀 3370
<https://www.fukuchiyama.ac.jp>

 福知山公立大学
The University of Fukuchiyama

「地縁型関係人口」という切り口

～「ふるさと・・もう一度（都市在住地縁者の心にふるさと再生を）プロジェクト」
を振り返って～

日本における急速かつ長期的な人口減少は、国レベルの既存の様々な制度や政策の基盤を揺るがし、社会システム全体の抜本的な改革が急務となっています。しかし、自治体や地域社会における人口減少は地域間格差の拡大を伴って、多くの自治体を巻き込んで、社会そのものの衰退・消滅が非可逆的に進行する、より深刻な段階に立ち至っています。

地方における人口の減少、とりわけ若者の流出に対して、各地方自治体は若者を地域につなぎ止め、IUJターンによる人口の流入を増やすための教育政策・産業政策・地域政策に多くの努力を費やしてきました。しかしながら、限られた、しかも減少局面にある日本の総人口というパイを都市と地方、地方と地方で奪い合う、いわゆる定住化促進政策は結果として都市間の格差を拡大するものであり、その限界については多くの指摘がなされている所です。

また、これまでも世界に開かれた観光や通勤・通学などによる都市間の人口移動などを含む「交流人口」や、別荘生活や情報化の進展と高齢化社会など生活スタイルの多様化による2拠点居住など、法律上の住民の概念では切り切れない「新たな人口（住民）」概念が登場しています。それら定住人口と交流人口に大別されてきた人口概念を、人口減少時代における持続可能な地域政策形成の視点から再編し、新たに地域社会に対して能動的な活動を行う主体としての関係人口、本モデル事業では特に「地縁型関係人口」を組み入れた政策体系を構築することにより、地方自治体における地域社会の維持と発展を体系的に図ることが求められていると言えます。

今回取り組んだ地縁型関係人口を切り口とする「ふるさと・・もう一度（都市在住地縁者の心にふるさと再生を）プロジェクト」は、国の関係人口創出・

拡大モデル事業として、減少しつつある日本の総人口という限られたパイに拘束されない地域活性化のための人口政策の一つのモデルとして企画されました。

これまでの関係人口関連政策では、一般に都市在住者を対象に様々な手法を駆使して地方との関係性を構築し、交流人口を創出することがその事業の内容でした。それに対して今回取り組んだプロジェクトでは、地方に住む中高生たち及び地方の高校の卒業生たちという識別可能なターゲットを設定し、そのターゲットに対する働きかけと調査により、都市に流出した若者が関係人口として地域社会を支える仕組みの創出の可能性を体系的に検証することを目的としたところに新規性があります。

本報告書は、その挑戦の成果と課題、今後の展開についてプロジェクトで得られた示唆を含めてまとめたものです。関係人口のさらなる発展と深化のための参考としていただければ幸いです。

富野暉一郎（本事業スーパーバイザー／福知山公立大学副学長）



目次

事業の背景	1
事業の概要	2
ふるさと再発見ツアー	4
中高生たちとの交流会	6
移住体験ツアー (お試し移住)	8
ふるさとを生きるワークショップ	10
北近畿を熱く語るシンポジウム	12
高校生及び保護者を対象としたアンケート	14
北近畿地域の高校生を対象としたアンケート	15
観光旅行者の動態と地域に対する関心を分析するための調査	16
まとめ	18
おわりに	19

事業の背景

事業に取り組むに至った経緯

高校卒業をきっかけとした若者の都市圏への転出は地方における喫緊の課題である。その原因の一つとして、高校生が通常思い描くキャリアに関する情報の多くが都市圏に集中しており、それぞれの地域の企業情報や活力ある地域活動等が中高生に伝わりにくく、生まれ育った地域での生活が選択肢となりにくい状況がある。一方で、北近畿のシンクタンク機能を持つ北近畿地域連携会議による高校生へのアンケート結果からは、自分が住む地域への好感度は高いことが示されている。このことから一度地域を離れた若者を主たるターゲットとして、都会では得られない・実施できないことができる場また、若者が生活をおくる場として選択したいと思わせるための種々の事業を福知山市・朝来市・丹波市をフィールドに展開することとした。

地域の理想の姿

地縁型関係人口（特に高校卒業後に大都市周辺に就職・進学した地縁のある若者）が、福知山市・朝来市・丹波市の3市（ふるさと）の人とのつながりを通して、その地域の魅力に気づくことにより、若者たち自身がアクティブな「地縁型関係人財」として将来にわたり地域の元気を創出する。

本事業の位置づけ

これまで福知山市・朝来市・丹波市の3市が連携して取り組んできた「人財育成」「産業活性」等の緩やかな政策連携に加え、「関係人口」の取組を連携して行うことにより、地縁型関係人口に3市（ふるさと）の魅力を発見してもらい、圏域内の「地縁型関係人財」創出に向けた第一歩とする。

事業の概要

事業の全体のねらい

地縁型関係人口（①高校卒業後に大都市周辺に就職・進学した地縁のある若者、②都市部及び3市内*で学ぶ地域の中高大生、③3市に関心のある社会人、④3市を訪れる観光客）を主なターゲットとして、地縁型関係人口を構成する者が3市（ふるさと）において本事業に参画し、ふるさとを再発見したり、ふるさとのための活動を始めたりすることを通じて、アクティブな「地縁型関係人財」として地域社会に関わり、若者がUターンしたくなる地域づくりにつなげていく。

※3市…京都府福知山市、兵庫県朝来市・丹波市

実施事業

- ふるさと再発見ツアー 3回
- 中高生たちとの交流会 2回
- ふるさとを生きるWS 2回
- 移住体験ツアー 3回
- 北近畿を熱く語るシンポジウム 1回
- 高校生・保護者アンケート 各1回（12校）
- 卒業生アンケート 1回（3団体）
- 観光客アンケート 1回（5箇所）

事業のターゲット

- 地縁型関係人口
 - ①高校卒業後に大都市周辺に就職・進学した地縁のある若者
 - ②都市部及び3市内で学ぶ地域の中高大生
 - ③3市に関心のある社会人
 - ④3市を訪れる観光客

ターゲットの設定経緯

- ①高校卒業後に大都市周辺に就職・進学した地縁のある若者については、彼らが自身のふるさを都市住民の視点で見つめなおすことで、今まで認識できていなかったふるさとの良さの再発見を図り、地域社会に関わる関係性を構築して欲しいと考えたため。

- ②3市内で学ぶ地域の中高大生については、近い将来①になる可能性があると考えたため。
- ③3市に関心ある社会人と④3市を訪れる観光客については、①とは違った視点で3市の魅力を感じ、新たな地縁型関係人口になる可能性があると考えたため。

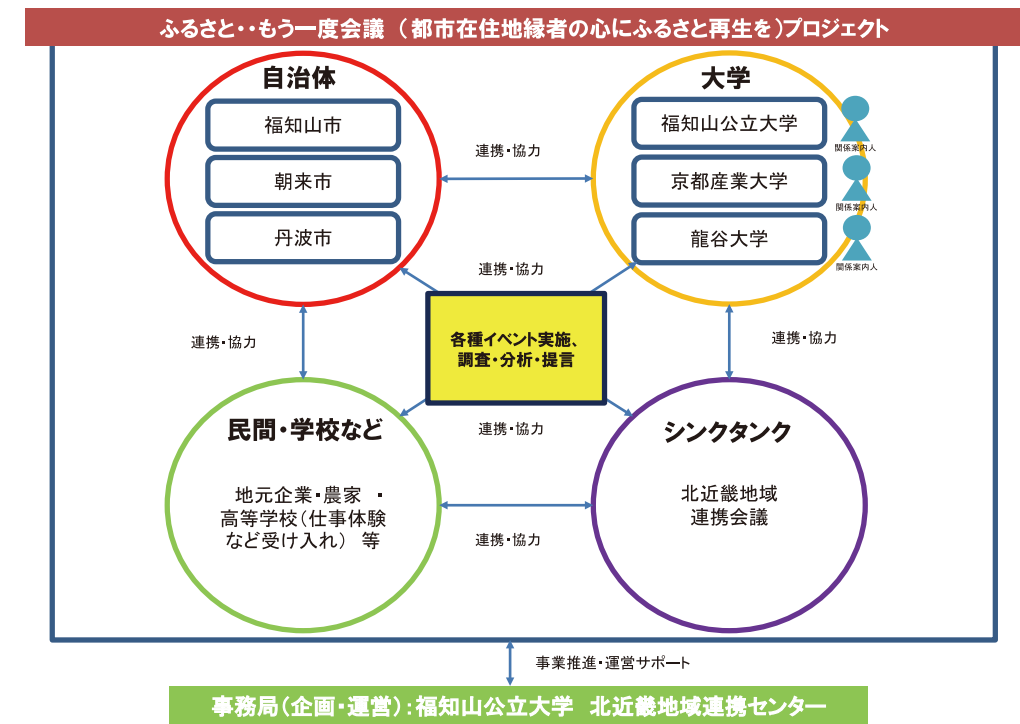
地域の概要

- 地名 京都府福知山市、兵庫県朝来市・丹波市
- 人口 福知山市 77,682人、朝来市 30,218人、丹波市 63,941人 計 171,841人（令和2年1月時点）

当地域は、京都府及び兵庫県の北部に位置し、隣接する3市は、古くは山陰道で結ばれ通勤・通学、買い物などに加え、生活文化や経済産業面など、多岐に渡って人・モノの活発な交流による日常生活圏域を形成していることから、交流人口が非常に多い地域である。

地域が抱える共通課題

当地域では、高校を卒業した多くの若者は、就職や進学等を契機として、都市圏へ転出し、産業の担い手不足も深刻な問題となっている（回復率の低下）。また、同様に高齢化による担い手不足についても、早急な改善策が求められている。



ふるさと再発見ツアー

目的

- ・都市部在住の大学生等を対象に、大学進学まで地元に住んでいながら意識していなかった、あるいは興味を持たなかった同地域に存在する隠れた地域資源を巡るツアーを行う。
- ・都市在住者の視点で地域を見つめ直すことを通じて、改めて地域資源の再発見を促し、卒業後UIターンや「関係人口」としてかかわってもらうための判断材料を提供する。

概要

1. 実施日

【福知山・朝来編】2019年9月7日(土)～8日(日)

【福知山三和編】2019年12月6日(金)～7日(土)

【丹波編】2019年12月7日(土)～8日(日)

2. 参加者数

【福知山・朝来編】7名【丹波編】11名【福知山三和編】1名

3. 内容

【福知山・朝来編】福知山では中心市街地における事業やまちづくりの取組に関する話を伺ったり交流会に参加したりした。朝来ではUIターン、二拠点、副(複)業といった多様な働き方の実践者が活躍されている現場を訪問し、話を伺った。

【丹波編】地域発のグローバル企業、災害復興からの地域づくり、地域資源を活かしたビジネスの現場を中心に訪問した。

【福知山三和編】里山ツアーを実施したほか、竹伐採体験、竹炭作製などの実際の業務を体験した。

4. 参加者の声

【福知山・朝来編】

- ・福知山商工会議所青年部会長の個性に魅了された。
- ・地域のいろいろな方と交流でき、良い勉強になった。
- ・ビジネスのことがわからないので、懇親会の時少し困惑した。
- ・色々な人たちと出会えたのは良かったが、もう少し生活の中も見たい。

【丹波編】

- ・身近にある企業のことを知ることができてよかった。
- ・北近畿にはもっと他にも優良企業があるはずだと思う。益々の発展を期待したい。
- ・復興の取組と圃場の見学でご苦労が思われて心に残った。

【福知山三和編】

思ったよりもハードな内容だった。竹の重さの違い、形の違いに興味を持つことができ、ある意味、肉体労働の面白さを感じ取れた。

5. 残された課題

ツアーにおける学生など参加者の気づきと“出口”とを接続する方策の検討。



中高生たちとの交流会

目的

- ・都市部に住む学生等と地元の中高生とが地域社会の課題をめぐってワークショップ形式で意見交換を行う。
- ・ワークショップを通じて、地元に対する双方の考え、気づき等を共有しながら、「若者が地域のことを知る、地域にかかわる、地域に住む、地域で働くことの意味・意義」について共に考える。

概要

1. 日時

【福知山市】2019年8月19日（月）13:30～16:30

【朝来市】2019年8月20日（火）13:30～16:30

2. 参加者数

【福知山市】29名（中高生14、大学生・福知山市役所インターン生15）

【朝来市】58名（中高生44、大学生14）

3. 内容

地元中高生と大学生等による小グループでグループワークを行った。以下3つのテーマ、①10～20年後の地域の未来予測、②予測した未来に向けて必要なことは何か、③今の自分たちにできることについて話し合い、その結果を発表した。なお、朝来市においては市長・副市長等へ話し合った内容についてプレゼンテーションを行った。

4. 参加者の声

【福知山市】

- ・福知山の人口は少なくなっているのに、ネガティブなことを考えるのではなく、どうつながっていかうかということを考えることができた（高校生）。
- ・福知山の現状と未来について考える機会になった（中学生）。
- ・テーマが難しい。テーマのつながりと求めている意見にずれを感じる（大学生）。

【朝来市】

- ・大人よりも子供が動く。そのために自主性を身につける。
- ・大学生の立場として協力してくれる人脈を増やす。
- ・地域と学生との対話の場を増やす。
- ・地域のお祭りなどに参加することで人間関係を作り、助け合える関係を作る。

5. 残された課題

交流による両者の変化を、事業実施後（例えば1年後、卒業時等）に検証する必要がある。



移住体験ツアー（お試し移住）

目的

- ・都市に在住する人達を対象に、“お試し移住”の機会を提供することにより、田舎で特色のある活動をしている組織・団体・活動家等に、仕事の体験を通じて、地方都市や田舎暮らしにも大きな魅力があることを知ってもらう。また「関係人口」として具体的に行動するきっかけをつくる。

概要

1. 日時

【福知山市】2019年11月23日（土）～12月6日（金）

2. 参加者数

【福知山市】2名（大阪市 女性・埼玉県 男性）【朝来市】1名（豊中市 男性）

3. 内容

【福知山市】

- ・ひぐち農園農業体験（野菜の収穫等）・移住関係調査（市役所・空き家見学）
- ・福知山名所観光

【朝来市】

- ・ホテルEN 裏方作業体験・市役所等移住に関する情報収集・市内観光

4. 参加者の声

【福知山市】

- ・初めての農業体験、大変な作業ではあったが続けてみたい。
- ・鳥の声や風の音など都会とは違う音に囲まれて、ゆったりとした時間の流れを感じながら作業できて新鮮だった。
- ・栗の木の肥料まき時は、まるで天空の城ラピュタにいるよう。
- ・第二の人生で農産物加工等で起業検討。役に立った。

※大阪市女性 3月より移住決定

※豊中市男性 次のステップ お試し移住制度参加決定

【朝来市】

- ・行楽シーズンで竹田城の雲海他観光ができよかった。
- ・様々な人との貴重なコネクションを持てた。
（ホテルEN 関係者・移住サポーターの皆さん・仕事情報）
- ・よりきめ細かい職業や支援、居住情報が欲しい。今後のフォローに期待。

※今後移住あるいは二拠点活動検討

5. 残された課題

潜在的移住、二拠点活動希望者の多様なニーズへの対応

（宿泊、情報等市町村連携した移住体験の仕組み確立）



ふるさとを生きるワークショップ

目的

- ・都市と地域に住む若者や住民が、密度の高い意見交換を通じて「ふるさとで生きる」ことの意味と意義を再確認する。
- ・5年後を見通して「私は何をすべきか」「私には何ができるのか」「ふるさとをこのようにしたい」と具体的に考え、行動するきっかけとなる場をつくる。

概要

1. 日時

【福知山市】2019年10月27日（日）15:00～18:00

【朝来市】2019年11月16日（土）13:30～16:30

2. 参加者数

【福知山市】41名 【朝来市】60名

※移住希望者、地域で活動されている方にも参加いただいた。

3. 内容

前半（フィッシュボウル形式）は、センターテーブルに6席を用意。参加者は、福知山市／朝来市に暮らす地域のリーダー3名と都市部と地方の大学生2名。残り1席は自由席として、周囲の聴衆が随時出入りして自由に発言できる環境とした。



後半（ワールドカフェ形式）は、参加者で6名程度の小グループをつくり、「ふるさとで働く魅力や期待」「ふるさとで暮らす、働く上での不安や足りないもの」「新しいふるさとでの『生き方』『暮らし方』『働き方』」について、各テーマでグループを変えながら話し合った。

■講演者

【福知山市】小林加奈子さん（農業者：株式会社小林ふぁーむ）

イシワタマリさん（美術家：山山アートセンター）

片山隆永さん（経営者：株式会社トラスト）

【朝来市】中島英樹さん（一般社団法人朝来まちづくり機構理事、地域おこし協力隊OB）

松本智翔さん（竹田劇場代表、TRUSS代表）

津 志歩さん（株式会社 NOUEN）

4. 参加者の声

【福知山市】

- ・地方が好きという学生に会えて意識が変わった。自分から地方を肯定する言葉、意見が出て意識の見直しができた。
- ・ふるさとはいくつあってもよい。

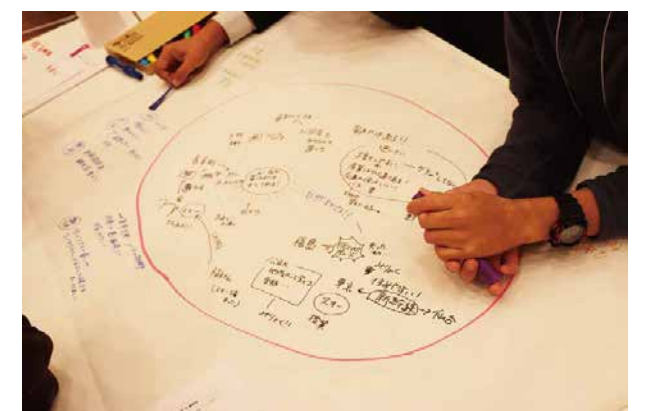
- ・住むなら地方か都市かと思っていたが、海外で住むという選択もあると思った。

【朝来市】

- ・田舎に「ない」と感じるものは、みんなで作っていけばよいのではないかと。資金が問題になって難しいのかな・・・面白い人はいっぱいいるのに。
- ・移住者の人が集積する（新興住宅的な）エリアがあると、移住者の人もなじみやすいのかもしれない。

5. 残された課題

継続的な話し合いの場の必要性



北近畿を熱く語るシンポジウム

目的

- ・本事業を通して体感した北近畿の魅力や可能性を地域の充実した生活や活力に結びつけるために、「何ができるのか」、「どのような行動をしたいのか」、「どう変えて生きたいのか」について語り合い、共有する場をつくる。
- ・翌年度以降に地域において実施可能な関係人口が関わる事業を掘り起こし、実施可能なアイデアについては各自治体における継続的な取り組みにつなげていく。



概要

- 開催日時 2020年1月12日(日) 14:30～17:00
- 会場・場所 京都大学百周年時計台記念館2F 国際交流ホール
- 参加者数 140名
- ゲスト ロザン(吉本興業所属)
- 主催/共催 ふるさと・もう一度会議(福知山公立大学、福知山市、朝来市、丹波市)
- 後援 京都府、兵庫県

【第1部 成果報告会】

都市部や地元出身の若者たちに北近畿の魅力や「来て・見て・知って」もうらうために実施した事業の成果報告会。

【第2部 「北近畿をいじる！」アイデアコンテスト最終プレゼン】

北近畿で「こんなことをしたい！」とアイデア募集し、最終選考に残った8アイデアについて発表。

【第3部 アイデアコンテスト表彰式】

合計408件の応募があり、最終プレゼンの結果は以下の通りとなった。
(「北近畿をいじる」アイデアコンテスト 表彰結果(敬称略・順不同))

■最優秀賞

- ・「シティープロモーション×中学生 未来を育む地域を育てる」
福知山高校附属中学校 宮本凌

■優秀賞

- ・「大学生地域創生会議 in 北近畿」
京都大学地域創成サークル「エスノ3ジョウ」 松井優

■特別賞(吉本興業所属の高学歴芸人ロザンが登壇し、選出)

- ・「リヤカー屋台～feel Japan～」近畿大学附属豊岡高等学校
野崎彩有里(代表者)、西垣征宏、松岡佑羽

■奨励賞

- ・「応援したくなる、挑戦したくなる兼業マッチング ふるさと兼業」

福知山公立大学 山元翔吾

- ・「月一回北近畿民になっちゃったら」

立命館大学 中川紗綾

- ・「AI・ITを活用したアイデア」

京都産業大学 中村仁星、谷川公将

- ・「空き家と企業・起業家をつなぐプラットフォームづくり」

福知山公立大学 亀谷隼生

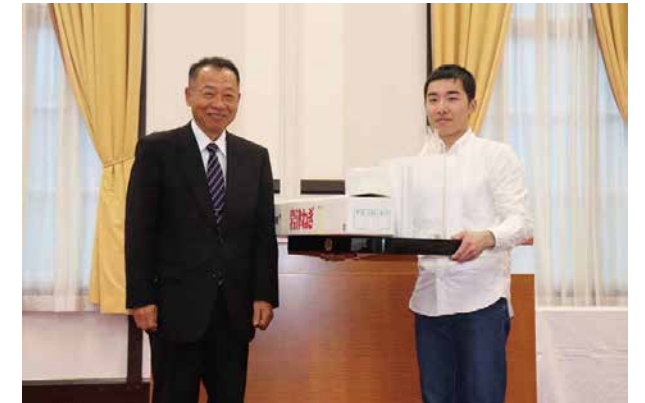
- ・「福知山の福祉が選ばれるには～福祉を起点に福知山をより住みやすい街に～」

福知山市民 谷内雅範



残された課題

アイデアの具現化に向けた地域との連携体制の構築



高校生及び保護者を対象としたアンケート

目的

- ・高校生および保護者の地元地域に対する意識について調査し、現在の若者が将来的に関係人口として地域と関わる可能性を創出するために重要な要素を明らかにする。

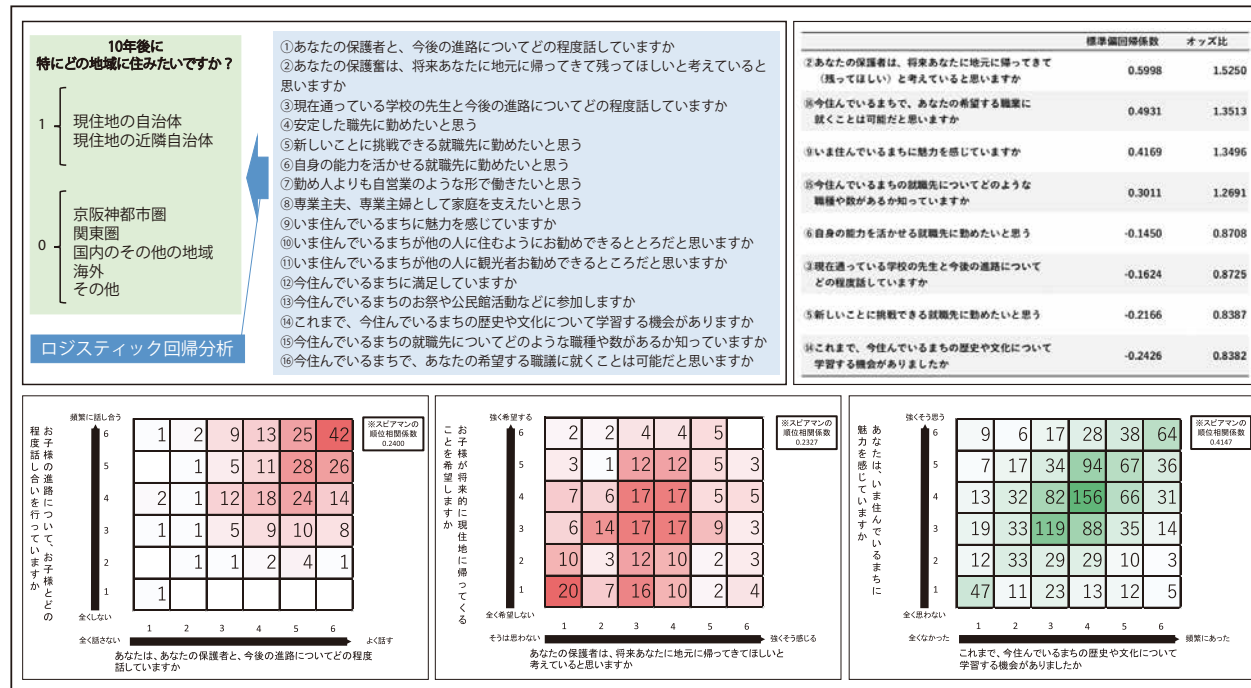
概要

【アンケートの実施と回収】

- ・高校生：配布数 1752 回収数 1394 (回収率 79.6%)
- ・保護者：回収数 1752 回収数 333 (回収率 19.0%)

【アンケートの主な分析結果】

- ・高校卒業後 10 年時点で地元に住みたいと思うかどうかを目的変数とし回帰分析を実施。



- …高校生が将来的に地元に住みたいと思うかどうかについては、「保護者がどう考えていると思うか」という要素が最も影響力が強い。
- …「自分の能力を活かせる職場で働きたい」「新しいことに挑戦できる職場で働きたい」という人ほど地元外に住みたいと思う傾向にある。
- …「地元について学ぶ機会が多い」と思う人ほど地元外にも住みたいと思う傾向にある。
- ⇒進路について地元に関する考え方や、長期的なキャリアの考え方について親子間で共有する機会を提供する必要性。
- ⇒地域学習プログラム内容の改善の必要性（魅力の再発見、キャリアとのつながり）。

（残された課題）

- ・各種データのより詳細な分析を行い、各変数間の関係性についてのモデル構築を図る。
- ・関係人口として地域と関わる人数の規模等の将来予測につなげるためには継続的な調査を実施する必要がある。

北近畿地域の高校生を対象としたアンケート

目的

- ・北近畿地域の高校を卒業した者の地元地域に対する意識について調査し、北近畿地域の出身者が今後関係人口として地域と関わる可能性を創出するために重要な要素を明らかにする。

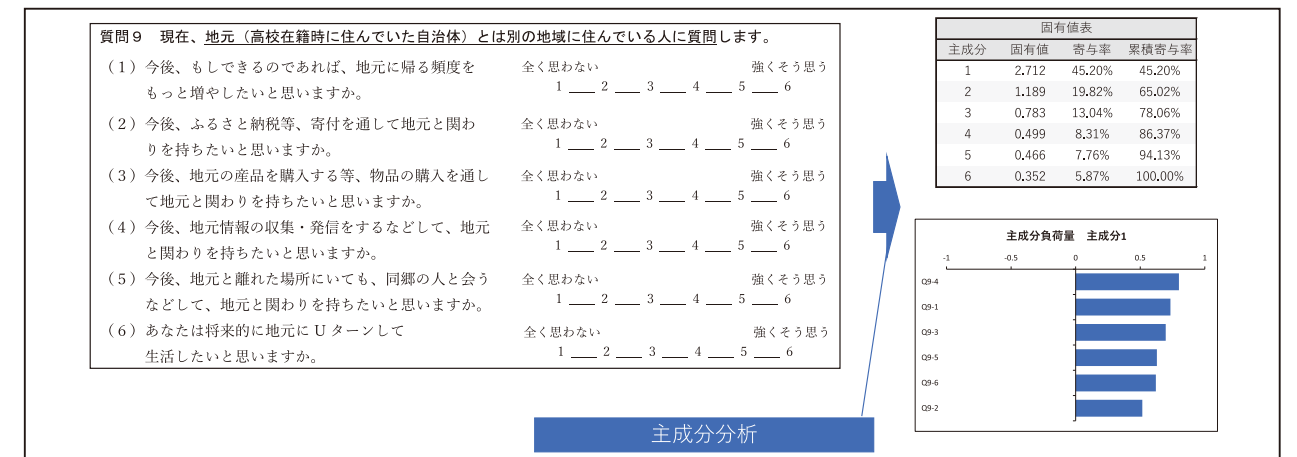
概要

【アンケートの実施と回収】

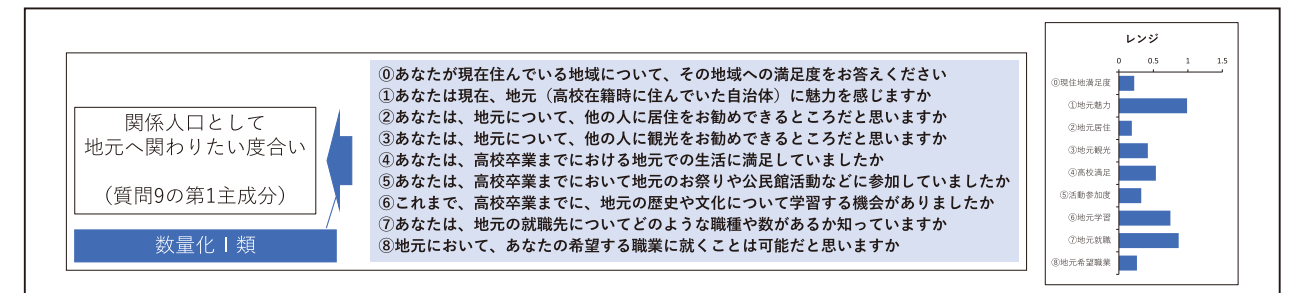
- ・卒業生：配布数 1240 (1388 通郵送し、うち住所不明で 148 通返送) 回収数 137 (回収率 11%)

【アンケートの主な分析結果】

- ・関係人口に関わる質問項目について主成分分析を行い、関係人口として地元へ関わりたい度合いを示す指標を作成（アンケートにおける質問9の第1主成分）。



- ・質問9の第1主成分の主成分得点を目的変数として回帰分析を実施。



- …地元地域外に居住している人が、関係人口として地元地域に関わりたいと思うかどうかは、「地元魅力を感じているかどうか」「高校卒業までに地域の歴史や文化について学習する機会があったかどうか」という点が大きく影響する。
- ⇒関係人口の創出にあたっては、地元地域から出る前の段階から地元地域について学べる機会を提供するとともに、地元から出た後でも地域の魅力を感じられるような情報発信を行うことの重要性が示唆された。

（残された課題）

- ・回収率が低く未回収バイアスが生じている可能性があるため、継続的な調査を実施していく必要がある。

観光旅行者の動態と地域に対する関心を分析するための調査

目的

観光アプローチによる関係人口の創出可能性を分析する。

概要

「アンケートの実施と回収」

「道の駅 丹波おばあちゃんの里」(11月23日)、「道の駅 但馬のまほろば」(11月23日)

「竹田城跡」(11月23日・24日)、「福知山駅」(11月24日)「福知山城」(11月24日)

総計 995 名にアンケート用紙を配布し、12 月末まで 244 名のアンケートを回収 (回収率 24.5%) した。

「アンケート分析結果の中間的報告」

2020 年 1 月 12 日開催された「北近畿を熱く語るシンポジウム」(於：京都大学百周年時計台記念館国際ホール) で以下の中間的な分析結果を報告した。

従来型の観光に基づく満足度よりは、相対的に「地域の雰囲気」と「地域住民との会話・交流」を表す項目が、関係人口の創出可能性を表す他の項目との関連性が高いという結果が得られた。すなわち、「内発的かつ独特な地域場の創り」と「地域内外部との積極的なコミュニケーション」という要因が、「関係人口」の創出と維持に大きな役割を果たすという暫定的な結論が導かれた。

配布場所	日程	配布数	回収数	回収率
道の駅丹波おばあちゃんの里	11月23日	200	48	24.0%
道の駅 但馬のまほろば	11月23日	200	66	33.0%
竹田城跡	11月23日	200	38	19.0%
	11月24日	195	36	18.5%
福知山駅	11月24日	100	19	19.0%
福知山城	11月24日	100	37	37.0%
合計		995	244	24.5%

「分析項目」

「Q9 今回のご来訪について、どの程度満足されたでしょうか」

(順序尺度：大いに満足 1, 満足 2, 満足しなかった 3, 全く満足しなかった 4)

①観光・来訪の目的について ②目的地の施設 ③目的地でのサービスや接客態度

④宿泊施設 ⑤地域の雰囲気 ⑥地域住民との会話・交流

⑦現地で食べたもの ⑧現地で購入したもの

→一般の観光地としての魅力と、単なる観光地を超える「場」の雰囲気

「Q10 来訪された地域について感想をお聞きます」

(順序尺度：大いに満足 1, 満足 2, 満足しなかった 3, 全く満足しなかった 4)

①この地域についてもっと知りたい ②この地域の住民に親しみを感じる

③この地域を盛り上げる何か(ふるさと納税ボランティア等)があれば応援したい

④この地域は自分にとって大事な場所だと思う ⑤この地域に住んでも良いかもしれない

→地域(このアンケートは、北近畿地域)への関心度と関与度を意味

「Q11 帰宅後してみたいと思うこと(もの)がありますか」

(順序尺度：大いに満足 1, 満足 2, 満足しなかった 3, 全く満足しなかった 4)

①この地域をもっと調べてみたい ②この地域の情報や知ったことを SNS で発信・共有する

③この地域について友人・知人に話す ④この地域で食べた・買ったものを取り寄せる

→地域への関心度と関与度の持続性を意味

「Q12 この地域にまた旅行に来たいと思いますか」

(順序尺度：大いに満足 1, 満足 2, 満足しなかった 3, 全く満足しなかった 4)

→リピーターとしての来訪可能性を意味

「分析方法」

簡潔な分析のため、順序尺度の水準を「1」か「0」に集約し(「大いに満足と満足」を「1」, 「満足しなかったと全く満足しなかった」を「0」, 「大いにそう思うとそう思う」, 「そう思わないと全くそう思わない」も同様にする)、データ行列を作り直した上で、各項目の関連性の強さを表すため、相関係数を導いた。

「分析結果」

各項目間の関連性の高低は多少異なるものの、多くの場面で「地域の雰囲気」と「地域住民との会話・交流」を意味する項目が、相対的に他の項目と高い関連性(重要度)を有するという結果が得られた(例えば、上記の Q9 と Q10-②の相関は、地域の雰囲気が 0.353、地域住民との会話・交流が 0.397)。この結果に限って考えると、観光アプローチからの「関係人口」よりも、内発的かつ独特な地域場の創り(地域資源の開発、地域ビジネス・モデルの創造、地域へのコミットメントや一体感を高める地域ムーブメント等)と、地域内外部との積極的なコミュニケーションが、「関係人口」の創出と維持に大きな役割を演じるのではないと思われる。

(残された課題)

上記の分析結果をより精緻に議論すべく、「性別」による効果・「年齢」による効果・「地域差」の効果等に対するさらなる分析と考察を行う予定である。

まとめ

本年度の気づき

本事業は、まず兵庫県・京都府の県域（旧国単位では但馬・丹波）を超え、また都市部・地方の物理的距離を超え、3市・3大学*が連携し、そのネットワークならではの強みを生かし、事業が組み立てられた点に最大の特徴がある。

また、企画・運営の事務局を担った福知山公立大学も、北近畿地域連携センターだけでなく、本事業独自にPT（Project Team）を創設し、その実施に当たった点にも特筆すべきであろう。

他方、一地域・一組織を超えての事業である分だけ、意思決定が複雑になり、苦労した面もあった。そこは3人（大学）の関係案内人（コーディネーター）が潤滑油となり、週一回の事務局・コーディネーター会議（オンライン）で情報共有に務め、一つ一つの事業の企画・実施に取り組んだ。

今後、他地域でもこのような一地域・一組織を超えての事業で関係人口創出・拡大事業を展開するならば、こうした関係案内人（コーディネーター）の配置とオンライン会議を活用した協議の場づくりが必要不可欠と考える。

※3大学…京都産業大学、龍谷大学、福知山公立大学

本年度の課題と対応

＜事業全体＞

課題 本事業が6月議会の議決以降のスタートとなり、事業実施の一部が夏季休暇中となったこともあり、全体として集客面に苦労した。特に主たるターゲットである高校卒業後に大都市周辺に就職・進学した地縁のある若者については広報アプローチが難しく、3市や大学も都市部への広報ノウハウを持っていなかった。

対応策 関係案内人（コーディネーター）や大学関係者の持つネットワークから地道にPRした。またプレスリリースも都市部と同時に行った。

今後に向けた課題・見直しと対応方針

＜今後の課題＞

今後も地縁型関係人口のうち特に主たるターゲットである高校卒業後に大都市周辺に就職・進学した地縁のある若者については広報アプローチをするならば、地縁型関係人口ならではの広報手段を検討することが必要である。

＜対応方針＞

三市および大学、関係案内人のネットワークを総動員し、例えば、高校協力（同窓会の活用）や拡散力の高いtwitterの活用、都市部のメディアへの露出、北近畿出身の有名人による発信、口コミなどが必要である。

おわりに

「地縁型関係人口から地縁型関係人財へ」

本学では、2019年度に総務省の「関係人口創出・拡大モデル事業」の一環として、福知山市・朝来市・丹波市、京都産業大学、龍谷大学などと連携し、「地縁型関係人口」の創出・拡大モデル事業に取り組んで参りました。いわゆる結論をKPI（業績評価指標）だけで総括するならば、未達が多い結果となりましたが、たとえば、移住体験ツアーでは、3人のうちの1人が実際に移住を決定されましたし（もう1人も移住を検討中）、北近畿をいじるアイデアコンテストでは、中学生から大学生、社会人まで400人を超える人から自分ごとのアイデアが寄せられました。また、高校生・保護者アンケート調査では、「高校生が将来的に地元に住みたいと思うかどうかについては、保護者がどう考えていると思うかという要素が最も影響力が強い」「自分の能力を活かせる職場で働きたい、新しいことに挑戦できる職場で働きたいという人ほど地元外に住みたいと思う傾向にある」「地元について学ぶ機会が多いと思う人ほど地元外にも住みたいと思う傾向にある」といった興味深いエビデンスも確認できました。

その意味では、「モデル事業」という特性を最大限活用しながら、8事業を実験的に展開しつつ、「地縁型関係人口」に対するアプローチの必要性や重要性を確認できたことに最大の意義があったといえます。また、地域（北近畿と都市部、兵庫県・京都府、旧但馬国と旧丹波国）や、セクター（自治体・大学・高校・企業・NPOなど）の枠を超えた連携をすることにより、それぞれの長所を生かしたシナジー効果が創発されることを確認できたことも大きな収穫です。加えて、大学生だけでなく、中高校生の多くが北近畿地域や「地縁型関係人口」に対して、様々な思いや情熱、アイデアを持っていることが見える化でき、今後は共に企画や事業を協働するパートナー（地縁型関係人財）になり得ることが確認できたことも大きな成果であったと思います。

他地域に応用可能な示唆があるとすれば、以下3点程度が挙げらると思います。1点目は、広域連携の範囲として、これまでは国が主導して来た定住自立圏や連携都市圏という切り口が主でしたが、本事業のような「地縁関係人口連携都市圏」のような圏域を確認あるいは同定をすることも必要ではないか、と

の示唆です。これはこれまで存在して来た近隣自治体による一部事務組合とも違う、言わば新たな関係領域からの圏域の提案となる可能性が高いと思います。2点目は、仮に「地縁型関係人口」の必要性があるとするならば、そのような「地縁型関係人口」と実際の自治体政策と結びつける新しい回路からの政策形成（づくり）が必要ではないか、との示唆です。このことは各々の自治体にこれまでの住民基本台帳の住民をベース（前提）とした政策形成（づくり）からのいわば転換を求められることにもなるかもしれません。3点目は、今回のように圏域やセクターを超えた有機的連携をベースにすると、自治体だけでなく、実際に「地縁型関係人口」のための企画（事業）の実施（実装）部分を担う、「中間支援組織（団体）」も必要になるのではないかと示唆になります。というのも、NPO 法人 1 つをとってもその多くは都道府県ごとに完結した活動となることが多く、圏域を超えた活動を行う団体はそう多くないからです。たとえば、地域おこし協力隊制度など県域を超えて共同募集・運用するのも一案かもしれません。

ともあれ、地縁型の「若者」を主たる関係人口と捉える「地縁型関係人口」、とりわけ「地縁型関係人財」の検討は始まったばかりです。中山間地域が多く存在する北近畿、本学においても、引き続きその可能性を検討していきたいと思えます。

杉岡 秀紀
(本事業責任者/福知山公立大学北近畿地域連携センター長)

発行年：2020年2月28日

発行者：福知山公立大学

プロジェクトメンバー：以下の通り

(スーパーバイザー) 富野暉一郎 (副学長)

(アドバイザー) 井上 正嗣 (特命教授)

(事業責任者) 杉岡 秀紀 (北近畿地域連携センター長)

(コーディネーター/連携研究員)

小澤 七洋 (元京都工芸繊維大学コーディネーター)

滋野 浩毅 (京都産業大学教授)

久保 友美 (龍谷大学博士研究員)

(参加教員) 神谷 達夫、鄭 年皓、谷口 知弘、大谷 杏、三好 ゆう、

江上 直樹、佐藤 充、張 明軍

※敬称略、順不同

事務局：福知山公立大学北近畿地域連携センター

住所 〒620-0886 京都府福知山市字堀 3370

電話 0773-24-7100

FAX 0773-24-7170

E-mail: kita-re@fukuchiyama.ac.jp